

第498回 三水会便り

コロナ禍で例会開けず、現地集會に焦点絞られる

4月集會は日本名城100選のひとつ/八王子城跡

新年度を迎えました。態勢を整え3年目。軌道に乗りかかったところへコロナ禍に襲われました。身動きが取れません。現地集會はやっと再開できましたが、例会は開催できず、結果として現地集會に焦点が絞られた格好です。半身不随の惨めな姿に、“例会こそ三水会の原点”と、さらにお叱りを受けそうです。5月の総会は、郵便・メール等を活用した変則的なスタイルになります。要望、意見、提案、感想等をお寄せいただければ幸いです。集約したのち議論し会の運営に反映させたいと思います。例会を開けず、意見交換の場がありません。近況をお知らせください。(高橋重)

4/10(土) 現地集會

城跡探測のあと分かれて北高尾山稜を歩く

◇集合/JR 高尾駅北口バス停 9時20分頃 西東京バス八王子城跡行 9時28分発に乗車◇装備/日帰りハイキング対応・弁当など/高尾駅北口駅前にコンビニエンスストアがあります◇参加費/保険料のみ300円(現地でお渡しする資料はありません)◇天候判断/前日夕方の東京西部エリアの天気予報を見て実施の是非をメールします◇コロナ判断/まだワクチン接種前です。感染状況と行政の対応を判断材料に一週間前ころに参加者へメールで相談して決めたいと思います◇申込先/遠藤源太 メールのみ受付 falcoapus@gmail.com 解散後ルートもお知らせください◇締切日/4月5日(月)本格的な登山でなく、コロナでなまった足を慣らしたい人や体力万全でさらに鍛えたい人にはさらに筋トレの機会を提供することを目的に企画しました。そのため狐塚峠で解散し、その後は各自でルートを決めて下山していただきます。城跡のみ参観の方も参加OKです◇ルート/高尾駅からバスで八王子城跡下車 250m……山城遺構を観察しつつ城山 446m……稜線を西へ富士見台 556m付近で昼食……さらに西へ狐塚峠 500mで解散。以後の参考ルート

- ……①南の小下沢 320mへ下る……林道を旧甲州街道へ……バスで高尾駅
- ……②小下沢下降の後……景信山 727mまで登り返す……最短は小仏バス停
- ……③黒ドッケ 600mから北へタ焼け小焼け 250mまで……バスで高尾駅

係り/遠藤源太が案内

北条四代目氏照が築城、上杉・前田・真田の連合軍に攻められ落城

石積み多用き安土の築城を参考にしたか 伊勢新九郎(北条早雲)に始まる後北条氏が武蔵の国西部の統治拠点となる支城として築いた。築城開始は天正10年(1582年)頃、北条氏3代当主氏康の子、氏照によるとされる。以前の居城が武田信玄により落城寸前まで攻められたことを踏まえ、より堅固な城として計画された。土塁や空堀といったそれまでの土主体の中世城郭に比べ石積み多用していることから、天正4年織田信長により築城された最先端の安土城をも情報取得し参考とした可能性があるとの指摘もある。

天正18年(1590年)、豊臣秀吉による小田原攻めが始まる。本拠地の小田原城はこれまで武田信玄や上杉謙信すらも退けた堅固な城であったことから拙速に攻めず、まずは関東各地に散在する支城を順に攻め落とし、支城からの支援ルートを絶つことで本城の孤立を狙った。八王子城も同年6月23日、小田原城支援に向かった城主氏照が不在の中、上杉景勝・前田利家・真田昌幸らの兵力約15,000による攻撃を受け1日で落城した。



落城後、家康がそのまま天領とし温存して破壊防ぐ NHK大河ドラマなどでは秀吉の小田原攻めは取り上げられる機会が多いものの、支城攻めのシーンはまずない。小田原本城では城主氏康・氏照の切腹をもって開城し、兵士と共に立てこもった農民・職人など非戦闘員の命は助けられたとされるが、支城においては逆で、むしろ本城の早期開城を促すための見せしめか抵抗した場合の被害は大きかった。八王子城でも守城兵力約3,000の大半は討ち死に(城代横地監物は落ちのびる途中で自刃か)、氏照の家族はすべて自害したと伝わる。落城後は、関東へ移封された徳川家康の所領となり江戸期末まで天領として保存された。明治以降、城郭部は国有林に指定され民間への売却もなかったため、城下の居住部を除けば東京であるにもかかわらず開発を免れた。

ベネチアンガラス通して異文化に接し異国に思いを馳せた この時代は地理的に世界が大きく変わり始めた時期である。大航海時代の波は大きく東南アジアでは植民地化が始まり、

日本でもキリスト教や鉄砲に象徴されるヨーロッパ文明との交流が始まっていた。特に鉄砲はそれ以前の戦闘スタイルを根本から変える新兵器として認識され急速に日本中に広まっていた。これを裏付けるように八王子城でも発掘調査で矢尻と共に多くの鉄砲玉が発見されている。もう一つの重要な出土品はガラスの破片であった……。それは遠くイタリアのベネチアで作られたベネチアンガラスだった。ベネチアンガラス製品は当時のベネチア共和国からオスマン帝国へ大量に輸出されていて、地中海に沈む貿易船からも度々発見されている。これがオスマン帝国からシルクロードを經由して日本へもたらされたものなのか、イエズス会宣教師が直接日本へ持ってきたものか、あるいは堺や安土経由で、すなわち今井宗久や信長・秀吉などの有力者の手を経て北条氏に伝わったものなのか、その経緯は不明である。

そのガラス製品は遠くヨーロッパと繋がっていて、それを見て美しいと感じた人がいて、ガラスの破片だとしたらそれでワインを味わったであろう人がいて、知人たちとの会合ではこのガラス製品は話題の中心となったに違いない。ベネチアンガラスを通して異文化に接し異国に思いを馳せ、美しさに驚き、興味を膨らませ、楽しい時間を過ごしたはずの人達は落城と共に亡くなったのだろう、と思いをはせる時にこそ歴史好きとして幸せを感じる。

3/26(金) 現地集会報告

JR 中央線上野原/尾続山→コヤシロ山→要害山

馬蹄形に 500~600m の小さなピークを歩く

集合/JR上野原駅 8:25, 飯尾行きバス乗車 8:32→8:50 歩行/尾続バス停→尾続山→コヤシロ山→要害山→風の神様→新井バス停→(タクシー)→上野原◇歩行時間5時間弱◇歩行/約 6km, 高低差 300m◇参加者 10 名(遠藤源太, 大野力彌, 北口マリ子, 征矢三樹, 高橋重之, 高橋郁子, 橋本雅子, 増田達治, 三井賢治, 係り/高橋あかね)

晴天に恵まれた。JR 中央線上野原駅から北西の尾続(おづく)山~要害山をぐるりと歩いた。電車は、国境の小仏トンネルを越えると山国にはいる。多少はカーブを描くことはあっても、ひたすら西へ進む。三水会の会員でもあった山村正光さんは、国鉄の車掌さんとして「車窓の山旅 中央線から見える山」を書いた。上野原は人口 2 万 2 千人の市に変わっていて駅南口に大きなターミナルができていた。北へ詰めると奥多摩との国境の尾根がさえ



ぎっている。かつて丸山, 土俵岳, 軍荼利山, また生藤山に向かった。桐原(ゆずりはら)という集落に長生きの老人が多く住んでいて“長寿の里”と騒がれたことがある。当時は前衛の小さな里山は見向きもしなかった。このところ注目されるようになった。

尾続バス停で下車。尾続山(538m)―実成(みなし)山(609m)―コヤシロ山―要害山(536m)と馬蹄形に連なる小さなピークを歩く。少しくついものの尾根にでると針葉樹と雑木が入り混じって広がる。春はまだ早い。眼下の桂川沿いに桜並木が花盛りとはいうものの山のなかはまだまだ。わずかにウ

グイスカグラが開花し鶯を待ちわびている。足下のスマレが懸命に伸びようとしていた。樹々の間から上野原の市街地や陣馬山, 道志・丹沢山系の山々が見える。真っ白い富士山, 中央沿線の大展望。5か月ぶりの山行は、より思い出深いものとなった。

甲府にもっと大きな「要害山」がある。786m。「味方に必要で、敵には害になるところ」と山村さんは表現した。信虎が城を築き信玄が生まれた。岩手県南部に集積しているという。コースの入り口に、由緒あると思われる大きな屋敷が建ち並んでいた。荒れ放題だった。木造の門が際立って立派だ。駅でもらったパンフレットによると、徽典館(きてんかん)といい、江戸時代から明治時代初期にかけて、甲府にあった学問所を移設した。山梨大学の前身にあたる。新井バス停に戻りタクシーで上野原駅へ戻った

5月 郵便・メール活用/総会開催へ

要望、意見等に加え近況をお寄せください

会の運営にたいする評価

みんなで考え協力し合いながらクラブライフを楽しむ。そのために、この2年間に以下のことを決め、あるいは改めました。それぞれについて評価してください。

1. 集団運営体制を敷き、会長・事務局長のほか山行、企画、集会などの担当を設けた。
2. 原則として月1回、例会・現地集会を実施する。例会は「午後1時から」実施。
3. 「あんころ餅」と「野美の市」を継続。ただし、20年の野美の市は会場閉鎖で中止。
4. 「三水会たより」を、従来の郵便はがきによる発送を改め原則としてメールで送信する。
5. 「たより」の掲載スペースにゆとりができたため内容を拡充。寄稿募る。
6. 過去の「三水会たより」のJACホームページへの収録作業を続けている。
7. 会計年度を「5/1～4/30」から「4/1～3/31」に切り替えた
8. 会費納入方法を振替口座から貯金口座の振り込みに切り替えた。
9. メール網を使って、清水会員に山に関するTV番組を紹介してもらっている。
10. 例会は、開催できない状況にある。

項目	評価
1. 担当幹事を設けた	・ <input type="checkbox"/> 評価しない ・ <input type="checkbox"/> 妥当だ ・ <input type="checkbox"/> もっと広げるべきだ
2. 原則月1回の例会・現地集会を続ける	・ <input type="checkbox"/> 評価しない ・ <input type="checkbox"/> 妥当だ ・ <input type="checkbox"/> もっと広げるべきだ
3. 例会は午後1時から開催	・ <input type="checkbox"/> 評価しない ・ <input type="checkbox"/> 妥当だ ・ <input type="checkbox"/> もっと広げるべきだ
4. ルームでの新年会・忘年会を中止した	・ <input type="checkbox"/> 評価しない ・ <input type="checkbox"/> 妥当だ ・ <input type="checkbox"/> もっと広げるべきだ
5. 1. 三水会たよりをメールで送信	・ <input type="checkbox"/> 評価しない ・ <input type="checkbox"/> 妥当だ ・ <input type="checkbox"/> もっと広げるべきだ
6. たよりの掲載内容を拡大	・ <input type="checkbox"/> 評価しない ・ <input type="checkbox"/> 妥当だ ・ <input type="checkbox"/> もっと広げるべきだ
7. 「たより」をJACホームページに収録	・ <input type="checkbox"/> 評価しない ・ <input type="checkbox"/> 妥当だ ・ <input type="checkbox"/> もっと広げるべきだ
8. 「あんころ餅」を継続	・ <input type="checkbox"/> 評価しない ・ <input type="checkbox"/> 妥当だ ・ <input type="checkbox"/> もっと広げるべきだ
9. 「野美の市」を継続	・ <input type="checkbox"/> 評価しない ・ <input type="checkbox"/> 妥当だ ・ <input type="checkbox"/> もっと広げるべきだ
10. メール網を使ってTV番組を紹介	・ <input type="checkbox"/> 評価しない ・ <input type="checkbox"/> 妥当だ ・ <input type="checkbox"/> もっと広げるべきだ

お願い それぞれの項目を採点して高橋重之、北口マリ子まで送り返してください。スタイルは自由。手数をかけますが、この部分をコピーし郵送していただいても結構です。21年度現地集会の提出は3月31日です。締切後、なるべく早く送信してください。

21年度計画

三水会現地集会/山行計画予定(★難易度)

月	日	対象地	担当
4月	10日(土)	城跡シリーズ 八王子城跡～北高尾山稜★★	遠藤
5月	10日(月)	琴平丘陵・羊山公園★	児嶋
6月	5日(土)	甲州街道～笹子越え★★	三井
7月	19日(月祝)～21日(水)	上州トレイル/谷川岳肩の小屋～平標山の家。上毛高原集合、越後湯沢解散★★★	征矢
9月	1日(水)～4日(土)	北ア(新穂高～西穂独標～焼岳～上高地)★★★★	三井
	4日(土)～5日(日)	あんころ餅と薬湯の会(山研泊)★	川俣・北口
10月	11日(月祝)～13日(水)	葛城・金剛山、世界遺産古墳群・堺の街★～★★	遠藤・北口
	28日(木)～29日(金)	45周年記念山行(御岳山)★	三井
11月	4日(木)～5日(金)	西上州(不二野屋/予約済)★★	橋本
12月	20日(月)	厚木蔭尾山(日本初一等三角点)/忘年懇親会★★	征矢
1月	-	新年山行/鶴岡八幡宮参詣と鎌倉衣張山、名越切通★	増田
2月	-	中央線シリーズ JR 四方津-エレベーター西御前-四方津御前山★	高橋あ
	2泊	八方尾根 or 志賀高原/スキー★	遠藤
3月	-	加治丘陵/西武線仏子-加治丘陵-桜大展望台★	中村
	1～2泊*	上越みつまたかぐら/スキー(民宿三清)★	遠藤

図書紹介

山あれば人あり

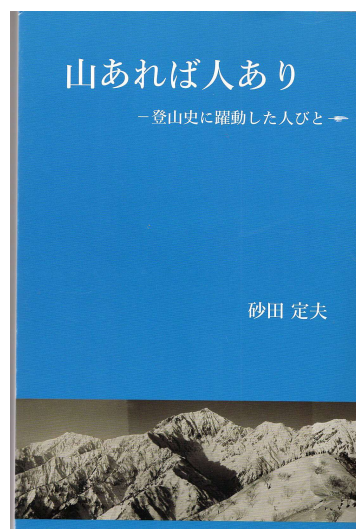
砂田定夫著

2020年12月
日本山岳文化学会
A5版252ページ 配価2000円

砂田定夫会員が日本山岳文化学会から「山あれば人あり」を上梓された。副題に「登山史に躍動した人びと」とされた。長年にわたって研究されてきた集大成だ。小谷部全助、吉田二郎は三水会の例会で報告していただいた。以下、筆者自ら紹介していただいた。



傘寿を超える年齢になり、何か少しでも後世に残すことはないか、と考えていましたが、コロナ禍で在宅時間が多くなり、これを好機と捉え念願だった本を上梓することにしました。所属する団体などで発表した論考などを集め、これに幾つか講演した内容などを加えたもので、約15年間にわたるささやかなライフワークの集大成と言えます。登山史という流れの中で、どのような人々がいかに活躍したか、どのような影響を与えたのか、いろいろな視点から論じています。三水会で3回ほど講演させていただきましたが、戦前に輝かしい登山記録を残しながら32歳という若さで病死した小谷部全助のこと、戦後登山界の潮流を大きく変えた第2次RCCの人々のこと、山行記録を疑われて誌上で論争のあと表舞台から姿を消した吉田二郎のことなどです。他に近代登山の先駆けとなった小島烏水や木暮理太郎などについて交友面からその足跡を追いました。日本山岳会の創立に関わった横浜の人々のことか、秩父とか丹沢という地域の文化から山と人を論じた章もあります。登山史は人物が描かれてこそ真実がある、という私の信念を表したのが書名となっています。本書がこのような分野に興味のある方にとって参考になればこの上なく嬉しいことです



会員異動 退会 鶴田泰子 会員(11963)が日本山岳会を退会されました。“老々看護”で山登りどころではなくなったそうです。残念です。

原稿募集 「三水会便り」への原稿をお寄せください。テーマなし、締切なし、長さ制限なし、送信はメール・郵送など、すべて自由です。手書きの原稿をはがきを書いて送ってください。大歓迎です。この「三水会便り」でも随所繰り返してお願いしていますが、毎月の例会が開催できず、現地集会にも二の足を踏む向きがいらっしやうては、会の活動が細るばかりです。「三水会便り」を有意義な通信手段として活用しましょう。みなさんの原稿で特集を発行する手もあります。この場合、例えばテーマを「三水会で出会った人たち」、「なつかしい思い出の山々」「登り残した山」…など。「はがき1枚の思い出」なんて、いいですね。

三水会便り 第498回 発行2021年4月1日
東京都千代田区四番町5-4 日本山岳会三水会
便り担当 北口マリ子, 山口延子, 文責/高橋重之